

姉妹都市を歩こう

広報うしく市民特派員

齋藤重

姉妹都市の水府村（現在は常陸太田市に合併）と牛久市は、昭和61年5月から友好関係を保っており、今後ますます相互の利点を共有すべき時が来ています。今回、旧水府村のいいところ、ぜひ観てもらいたいと現地の人から声がかっている2点を紹介します。

一つは武生神社です（左写真）。由来は701年蝦夷征伐の際に坂上田村麻呂将軍が参拝し、武運長



久を祈願し本殿を奉献したとして有名です。特にご観察いただきたいのは極彩色の本殿彫刻です。素晴らしいの一言につきます。武生神社真裏には、樹齢700年の大杉が元気に南側に向かっています。現地では天然記念物「太郎杉」としてご神体の呈をなしています。社殿は杉古木の森の中にあり、しかも武生山の越上に鎮座し、四方の眺めは雄大です。現在は自動車道が進行しているので、観光、山波ラインとして便利です。

二つ目は、持方集落を紹介します。県道33号線を北上、国道461号に合流した後、大子町入合から入ります。

集落の説明をしていただいた方は、地元の旧家で現在地域の区長をされている須賀川悦久さん。持方集落は常陸太田市の北部で大子町と接し、西方には男体山（653m）を望み、緑豊かな桃源郷そのものです（下写真2枚）。集落の起源は、徳川時代初期400年の歴史があり、アワ、ヒエ、ソバナ



どで自給生活をし、炭の生産や黒牛を育ててきました。厳しい生活であったにもかかわらず、年貢は立派に納めたといわれ、その元帳となったのが「盲帳」という符号文字です。ほかにも類を見ない貴重な文化財といえます。集落特有の文字文化は医療対策として薬品の種類にも利用されました。読み書きのできない集落民に分かるように独特の符号を考案したのです。例えば暑気あたりは「ㄥ」、下痢は「ㄣ」、腹痛みは「+」という具合で、使用に当たって誤らない注意工夫がされていました。これら山村生活、民俗習慣は、学



問としても高く評価され、民俗学者柳田国男、青山延寿、言語学者金田一春彦ほか、外国人、マスコミなど、興味を胸に抱いて訪れた人々は数知れないとのこと。「盲帳」と桃源郷を結びつけ、今もって取材が引きもきらない。もちろん水戸藩領内ですから、光圀公、斉昭公も巡視されたわけです。今はコンニャク生産に力を入れ収穫祭は9月15日。地元の指導で手作り実演が楽しめます。詳しくは、常陸太田市水府支所内水府観光協会 tel 0294・85・1116まで。